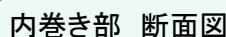


技術概要

施工順序

- ## Reライニング工法 システム概要



コンクリート性状

①活線下で覆エコンクリートの改築

- ・移動式プロテクタを使用することで、一般車を通行させながら覆工を改築できる
- ②内空断面を縮小せずに覆工コンクリートの改築が可能
 - ・既設覆工コンクリートを切削・内巻きすることで、内空断面を縮小せず建築限界を確保できる
- ③防水、導水処理、補強への対応
 - ・内巻き施工前に、防水シートや導水工、ロックボルトによる地山補強を行うことが可能
- ④覆工コンクリートの緻密性確保と工期短縮
 - ・早強・中流動コンクリートにより、充填性と早期・長期強度を確保できるため、早期開放が可能
 - ・内巻き覆工は現場打ちコンクリートのほか、プレキャスト製品にも対応できるため、早期開放が可能
- ⑤活線下での改築コストの削減
 - ・移動式プロテクタにより、改築影響範囲を限定的に防護できるため、コスト削減が可能
 - ・各設備は分離して切削やコンクリート打設など単体の業務にも対応できるため、コスト削減が可能

※「Reライニング工法」は、(国研)土木研究所、(株)鴻池組、岐阜工業(株)、(株)流機エンジニアリングの共同開発工法です。

